

ショートサウンドドラマ『遠距離恋愛〜That's enough...』

登場人物

貴一

麻夜香

貴一 遠距離恋愛〜That's enough...

SE..携帯が鳴る

貴一 ん？ メールか？

時計を見る貴一。

貴一 1時……。こんな時間に……。誰だ？

SE..携帯を取って開く。

貴一 麻夜香……。全然連絡よこさないと思ってたらこんな時間になって。

SE..携帯に文字を打ち込む貴一。

貴一 これでいいか。

SE..携帯を閉じ、テーブルの上に置く。

貴一 ……寝るか。

SE..また携帯が鳴る。

貴一 ……つたく。

SE..再び携帯を手に取り開く。

貴一 なんだと？ チッ！

SE..再び携帯に文字を打ち込む。

貴一 よし。

SE..携帯を乱暴に置く。

貴一 寝る。

SE…また携帯が鳴る。

貴一 ああっ！

携帯を取って開く。

麻夜香 貴一くん……。

貴一 何なんだよ？

麻夜香 ごめんね、急に駄目になっちゃって。

貴一 お前ねえ。

麻夜香 ごめんなさい。

貴一 何回目だ？

麻夜香 う……。

貴一 言えないんだったら俺が言ってやる。記念すべき10回目だ。二ケタ突入だよ、やったあ。

麻夜香 そんな言い方。

貴一 酷い？ は、よく言うぜ。10回も約束を破るのは……裏切るのは酷くないのか。

麻夜香 それにしたって。

貴一 お前だけじゃないんだ。陣内も、沢田も、尾木も、適当なことばかり。そんなに俺を！

麻夜香 ……貴一くん。

貴一 ゴメン。悪かった。駄目だな、テレビ電話ってやつは。俺がいる東京と、麻夜香がいる静岡。遠く離れて住んでいる二人なのに……、近くにいないくても顔が見えるっていうのは、どうも感情的になっちゃう。

麻夜香 うん……。

貴一 もっと強くならなきゃなって、いつも思ってるんだけど。性格ってヤツかな。簡単にはいかねえや。

麻夜香 強いよ、きいちゃん。強い。

貴一 ……（違うんだよ、麻夜香。俺が聞きたいのは、そんな言葉じゃないんだ）

麻夜香 きいちゃん？

貴一 ん？

麻夜香 こんなこと言っても、信じてもらえないかもしれないけど、わたし、きいちゃんのと大好きだよ。

貴一 分かってるよ。ちゃんと分かってる。（でも……。）

麻夜香 ホントに？

貴一 うん。

麻夜香 それでね？

貴一 うん？

麻夜香 顔色悪いよ？ 体調が良くないんじゃない？

貴一 大丈夫。心配しないでいいよ。

麻夜香 それならいいんだけど。

貴一 さ、もう寝たほうがいいよ。な？

麻夜香 うん。わかった。おやすみ。

貴一 ああ。さよなら。

貴一 すべては、俺の甘えが原因だった。誰かに救ってほしい。そう思っていた、俺の弱さ。それを理解することが出来ない人だということを確認できないまま、きつと分かってくれと疑わないままだった、俺の弱さ。そんな俺とあのユとの間には、どうやっても埋めることの出来ない溝が出来ていた。それに気付くのが遅すぎた。もう、触れられるほど近くにいたあの頃の二人には、戻れない。好きただけでは。だから……。

(了)